

『協働のまちづくり懇談会』 会議録

(H30.2.27 13:30 ～ 市役所中会議室)

出席者

- ・病院ボランティア 7名
 - 【内訳】院内ボランティア 5名
 - がんピアサポーター2名

- ・市 善岡市長、熊崎総務部長、安原市長公室課長、佐藤協働推進係長
- ・病院 山田審議監、小熊地域医療連携係長、大坂がん診療相談支援係長

1. 開 会

事務局 ～ 皆様、本日は大変お忙しい中、懇談会にご出席頂きまして誠にありがとうございます。ただいまから、協働のまちづくり懇談会を開催致します。始めに、懇談会の開催にあたりまして、善岡市長よりご挨拶を申し上げます。

2. 挨 拶

市長 ～ 皆さんこんにちは。市長の善岡です。お忙しい中お集まりいただきましたけど、皆さんとお会いするのはしょっちゅうお会いしている方とひょっとしたら初めてお会いする方もおられると思いますけども、私自身市長になってからどちらかというと行政が机の上だけで物事を考えて進めてはいけないと、やはり実態を見てその中でどうするかを考えないと本当に良い街にはならないだろうということで、私自身が先に出ているんな話を聞いてそれをどう政策に反映させていくか、ほぼ土日とか平日に時間があると私は出ていっているんな話をしてきました。それを多数取り入れてきましたが、なかなか、取り入れることができるものとそうでないものが現実にはございます。その中でどう行政を変えていきながらそれをバックアップしていくのが一番いいだろうかと、ただ、ボランティアの方々とは何回もお話していくと自発的なボランティアはいいのですが、義務的なボランティアもあつたりして非常に難しいなというふうに思っているところもございまして、温度差がやっぱりあるのですね。それをルールで区切るにはちょっと難しいなと思いつつもなんとかみなさんのモチベーションが上がるようにいろんな形で紹介、ボランティアグループを紹介したりしながらこんな活動されているのですよというのをブログに載せながら、紹介していこうという取り組みをしてきまして、市のホームページにも紹介のコーナーがあり、ボランティア団体の皆さん方の活動している写真を載せなが

ら一般の方が少しでも理解していただけるようになればいいなど、それは市長になってからの懇談会に中でそういう話がございまして、何とかトータルでいろんなボランティア団体を紹介しようということで進めたものでございます。私自身あんまり堅苦しいのは好きじゃないものですから、今日は気軽にいろいろな話を聞かせてもらって、フリートークな感じでいいことも悪いこともあるとは思いますが、いろいろな話をしたいなと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

【職員の自己紹介】

【病院ボランティアの自己紹介】

3. 懇談会

【本日の懇談内容等を説明】

【「市民との協働によるまちづくりをめざして」について概略説明】

【病院ボランティアの活動について説明】

【がんサロンボランティアについて説明】

市長 ～ 私も病院に患者としてではないのですが、行く機会があつて皆さんが活躍しているのをいつも見て話したりしているのですが、去年の病院祭に久しぶりに行ってカメラ持って行ったら、幌加内から来てそばを作っている人と知り合つて、なんで幌加内から来ているのですか？と聞いたらそばの名産地だからきているのではなくて、患者として来ていると言っていました。患者として砂川市立病院に通つて、そこでボランティアの存在を知つた。そんなきっかけからボランティアを始めたとおっしゃっていました。私は以前、がんピアサポーターの写真を撮つた記憶がありますが、ここは患者さんたちで作っているのだと聞きましたが、そうでない方もおられるのですよね。その人たちが頑張つてやられているのをいたく感動というか新鮮な感じがしました。そのような組織が砂川で作られています。市長が詳しく知らなくて申し訳ないのですが。

ほとんど医療の世界になってくるとうちの病院は規模が大きいものですから、ほぼ、事業管理者におまかせして、制度改正があるときしか私は事業管理者と話すことはないのですね。重大な制度をどう変更しようかとそれ以外は医療の世界というのは、なかなか難しい世界で、余計なことをするとだいたい病院がろくなことにならないっていうのは経験則で知っているものですから。がんサロンを知つたのも、本当は市内のラーメン屋さんがボランティアで毎回車椅子を寄贈してくれるものですから、お礼の意

味を込めて、その写真を撮ってブログに載せるのが本来の目的だったので。そのときに、幌加内のそばの幟が立っていて、年配の男の人に話しを聞いたら幌加内の人で、自分のがんになってからボランティアをはじめ、自分のがんを患うか、家族にがんの人がいる人たちで構成されているので、すって聞いて、病院の中に入ってそのコーナーの写真をとって紹介しました。

- 会員 ～ 砂川市立病院はがんの指定病院になっていますよね。
それではがんサロンとかを設けなさいと国の方から言われて、平成24年より立ち上げられました。
がんサロンに来ている方ですとか、ピアサポーターといって私たちががん経験者ですとか、その家族ですとか。そういうサポーター役も、別に砂川市立病院を使っているというわけではない方もいます。
- 市長 ～ 国の指導の中で出来て、ボランティアで来られる方もいる。実際のがんを経験して何とかしよう、支えようという感じですかね。
- 会員 ～ 砂川市立病院はがんの拠点病院なので、がん相談支援センターというのを設けないといけない。それは、空知の中核の病院という意味合いもあって砂川市だけではない大きな役割を持っているポジションだと思います。
- 市長 ～ わかりました。私が最初から知らなくてどうするのだという話ですけども。申し訳ありません。病院のほうは自分の方で精一杯で関わっているのではなくて、月に1回くらい事業管理者と制度変更する時なんかには市長室に来てもらって話をする程度なのですよ。
中身についても、細部は行政が口を挟んじやまずいという考えを私は持っています。過去に失敗した病院の例を見ると市長が市長の権限を出すと医療側とトラブルになって、そういうところはだいたい経営破綻していて、道内の例を見るとうまく行ってないのがあるものですから。前の事業管理者がいたときから、「病院を黒字にしてください。その代わり行政は口をはさみません」と、そして「医療に特化した規模拡大に関してはしっかり行政も応援します」と、だから空知一の病院にすると。全道一か。当時は、全道一の病院にするのだと、医療器械なんかも道内第1号で入れるなど、かなり先進的なことをやって今の形があるのです。その時の約束事項が「絶対赤字にしない」、「その代わり行政は口を挟まんでくれ」というのが市立病院の2大鉄則になっていて、そしたらこうなっていました。医療は今難

しい時代になりましたが、いずれにしてもがんの拠点病院とか急性期の拠点病院になっているものですから、砂川市の税金でまかなっている部分もあるのですが、砂川市だけの病院でないような幅広い形になって、砂川の場合は近隣から負担金を取るとかはやらない主義で懐深くやってきた感じですね。負担金を取ろうとして揉めているところもありますけど、ただ、ある程度役割としてこうなってしまうとそんな取らなくても広域で急性期はうちの病院で賄おう、慢性期は役割分担で市外の病院とか町医者とかに行ってください。砂川市立病院は患者が増えすぎてばんざいしそうになっちゃって、慢性期の人も多く来るものだから急性期の人待たされるようになってしまったのですね。今、内科なんかは慢性的な人は初診料を上げて、そして街医者のほうに行ってもらって、急性期の人たちを本来は特化していきたいのですよね。ただ現実はなかなか大勢が来てしまって、駐車場が無くなってしまったという感じになってしまっています。

市長 ～ みなさんはボランティアをやっていて何が問題とかありますか？

会員 ～ 問題といたしますか、私も道のほうで色々やっています、がんサロンというのが砂川くらい順調にといたしますか、大抵どこの病院もほんとに尻すぼみとかだんだん人が来なくなってしまうという状況でして、その中で砂川市立のがんサロンはほんとに毎回人がいっぱい来てくれるというか、ほんとに珍しいというか、全道的にも優秀ながんサロンなのですよね。

市長 ～ どうしてだろうか

会員 ～ 私たちが働いているからかな（一同笑）

市長 ～ 誰か引っ張っている人が。人材の問題なのかな。

会員 ～ 東京にマギーズというがん患者が集まれるような場所があつてそこには病院の看護師だとかソーシャルワーカーだとかそういう方々がいていつも人を迎えてくれるという募金でできているところがあつて、がん患者はそこを目指したいということなのですけど、砂川は病院のスタッフですとか私たちピアサポーターからしてみるとフレンドリーな、初めて来ても入りやすい雰囲気づくりができているといたしますか。

市長 ～ スタッフも良いということですか？

- 会員 ～ そうです、スタッフがすごく良いと思います。
で、「協働のまちづくり」これは協力の「協」なのですが、がんサロンカルミアは「共に動く」の共働でみんな仲間というか雰囲気作りがほんとに良いです。
- 市長 ～ 私が写真を撮った時も、知らないで行ったのですが雰囲気いいな一と思いつながら自然と入っていけるような、ちょっと幌加内の人には感銘を受けましたけども。そばの宣伝もかねてやっているのですか？という話や違うのですというところが元々の入り方だったのです。やっぱり道内でも一番雰囲気がいいのですね。
- 会員 ～ そうです、病院スタッフと患者と一緒に、共に雰囲気づくりをするのは中々ない。
- 市長 ～ なんでそうならないのでしょうか。
- 会員 ～ なんででしょうね。大抵、病院は病院、患者は患者でどっちが偉いというような雰囲気なのですが、砂川は違うので、私も色々なところで話をさせてもらっているのですが、そこで砂川はかなり宣伝しています。
なので、砂川市としてももっと自身を持ってアピールして良い部門だと思います。
- 市長 ～ アピールしなさいと、でも結構アピールしている感じもしますけどね。うちの病院の人を見ていると、確かに自治体病院としてはお手本だから一番元気。道内の自治体病院の中ではナンバーワン。
- 会員 ～ 拠点病院の中でもナンバーワンですね。
- 市長 ～ 事業管理者がいいのかな。うまくそれが昔風でなくて、ほどよく田舎さを残しながら、活気があるのは間違いない。どこかの病院に行ったりスタッフを見たり、医者体制と管理者がどうなっているかのレポートを道内回って歩いて色々貰ってみると、職員が目が死んでいるとか色々、現実的に地方の病院に行くと道立病院は特に酷くて、赤字なのは当たり前というレポートが上がって来ていました。おそらくうちの病院はそうじゃない、やはり黒字にしている、モチベーションが高いものだからやっていくうち

に精神的意欲が高くなるのではないかと分析はしていたのですよね。

医者の中からどうなのかと聞いたかったですけども。

適度に田舎すぎず、札幌にも近く、医者も充足しているものですから体制がそういう雰囲気になっていったのかなという感じはしなくもないです。

先生を見ても熱心ですから。

会員 ～ ただ、正直、病院内でそれだけ広まっているかというところでもない。一部だけだとは思っています。がんサロンは。本当に砂川市としてもそういう病院の中にこういうのがあるのだよというのはもっとアピールしても恥ずかしくない。全道の拠点病院の中でも患者と病院のスタッフができていくところはここだけだと思います。

会員 ～ そうだと思います。本人ががんだとか家族ががんだとかで心を痛めて目の前が真っ暗になって途方にくれる人が結構いるのですよね。でもがんサロンにくると一度二度と足を運ぶたびにみんな心が和んでいくのでとても良い場所です。

市長 ～ 共通の悩みがあるからかな？

会員 ～ そうですね。みんな共通の悩みを持っているので、なんとも心がなんとなくほっとして元気がでるのですよね。そして、色々な病院の看護師さんとかも隔てなく対応してくれて相談にも乗ってくれる。憩いの場所です。だからもっと市のほうでも力を入れて欲しいです。

市長 ～ 市のほうで力を入れるというか砂川市立病院は一緒にやっているのではなくて病院関係者にうちが口出しせずに行っているから上手くいっているという部分もありますね。

会員 ～ 全道で4番目にがん条例も作っていただきました。

市長 ～ そうですね。がん条例は市で作りました。がんにかかる医療費のことを考えるとその予防に力を入れていかなきゃまずいのではないかと考えて、予防の方に力を入れて特定検診などを行って40歳になった方が成人病を防ぐ率を上げるため受診率を60%にしようとしています。今年度末で50%になって全道でも高い方なのですが、それによって医療費が確実に抑えられ、その後、保健師の指導を徹底するとう

ちの介護保険料は空知で一番低くなる。施設はいっぱい持っていて、がんの患者を未然に防ぐようなことをやっていくとさらに医療費を下げられるのではないのかというのが元々の発想で、医療費の抑制をやって、がんの人を早期発見か、なりにくいような体制を作っていこうというのがこの条例。それに力を入れてやっていこうと。おそらく全道で見ても受診率は高いほうじゃないかな。空知では高いといわれるけども、全道ではもっと頑張っているところもあってその一番手のところに今行こうと思っています。がんもその予防のほうにもっと力を入れていこうと予算を割いていこうとしている、検診の助成なりいろんなことをしながら、それをすることでがんになる人を防ぐとともに医療費の増大もある程度防いで砂川市自体の医療費を下げるようにしている。今市町村の社会保障費が増えていて、特に医療費と介護費が増えていまして、それは国も負担を受けるけど市もお金を出さなければならない。そうするといつか財政がパンクしちゃうんで、予防に力を入れるようにしています。予防ってすごく時間がかかって、特定検診も10年がかりでやって、今やっと50%にもってきてそれで空知では一番くらいなのですが全道ではもっと頑張っているところもありますから砂川市もそこを高くしていこうとしています。がん条例を作ったのも去年ですからまだまだかかるとは思いますが。

会員 ～ これからだと思えます

市長 ～ 予防のほうに力を入れて成果が出るのは5年先かもしれない、特定検診は10年がかりだったから、10年先のことを見据えて、やろうとした。雑談になるけど、市長って自分の人気に繋がらないやつはやりたがらない、建物作ったとか何かやったとか、いるときに成果の出るやつをやりたがるのだけど、私は行政出身なものですから、そういう辞めた後に結果がでるかもしれないやつを合わせてやっていかないと自治体持たないのではないかと考えているのでこんなこともできるのですね。
さっき言ってくれた道内で一番雰囲気がいいんじゃないかとかいうのは、全道の実例を実際に見たのですか？

会員 ～ そうですね、本当に雰囲気が良いと思えますし、がん患者も他の地域に行くと乳がんですとか、私自身も乳がんなのですが、そういう患者さんは元気な人が多いのですが、砂川の場合はいろんな患者さんがいますし、ピアサポートの方も含めて、がんの種類も多いですし、男性も結構来てくれます。大抵は女の人しか来てくれないのですが、男性も結構来てくれ

るのが良い特徴なのかなと思います。ピアサポーターというどうしても50代60代の元気のある人がやりがちだと思われがちだが、私たちのがんサロンは会員さんのようにシルバー世代が本当に元気で、そういう元気な姿を見るとやはり病気に負けてられないなというのを肌で感じられる。ピアサポーターの中でも80代がびっくりするほど元気なのですね、だから雰囲気がいいのかなと思います。いざこざもありませんしフレンドリーな感じですよ。

市長 ～ 私が見たときもすごくフレンドリーだなと思いました。

会員 ～ みんな自発的ですよ。

市長 ～ 本当にがんにかかった人なのかな？と思いました。

会員 ～ がん患者のイメージが変わったと言っていたりもしているので、本当に良い会だと思います。

市長 ～ すばらしいですね。

会員 ～ 高齢だしがんだし、目の前が真っ暗になって途方にくれていた時に飛び込んでがんサロンに来たのですが、今は勇気を貰って元気になりました。みんなにパワーを貰えるのはがんサロンしかないと思います。

市長 ～ 家で籠もっているとあまりいいことがないですよ。色々なことを考えたりして。

会員 ～ そうですね。遺族の立場からですが、私もしょんぼりして友達にさびしそうな顔していたねとか言われていて。病院の連携室の方に誘われて行ったのがきっかけでそれからずっと行っています。とてもフレンドリーでそこで私はすごく勇気をもらいました。そのおかげで今の私がいる。がん患者の集まりなのですが、絡み合って、不思議と心がひとつになるような皆が元気になっていける体制になっていると思います。だから私も負けないようにがんばろうと思います。

市長 ～ もし行政にお願いしたいことがあるとしたら何かありますか？

- 会員 ～ 予算？（一同笑）
- 市長 ～ 予算は病院だから、会計が別になっています。独自の違う事業をすることはできるけども、病院と混在するのも変な話ですね。
- 会員 ～ PRについてですが、病院ではないところでのPRが必要だと思います。
- 市長 ～ 病院は病院にしか発信しないということですか？
要するに病院に来た人しか、がんセンターとかがんサロンを知ることができないので一般の場でもPRをしてもらえれば、がん患者さん以外の人にも知ってもらえる。一般のPRは市の役割だと、病院だと病院同士でしかPRにならないということでしょうか。
- 会員 ～ がんの緩和ケアとかでも、そういう患者になる前からそういうことを知っているのと悩みや苦しみが半減すると思うのですよね、なのでそういうアピールも大事だと思います。さらに、予防のことで何年かかるかわからないとっていましたが、その中でもがん教育も入っていくと思うので砂川市として小学校中学校、これから授業の中ではがん教育は必要だと思います。
- 市長 ～ そっちは市の役割ですね。
- 事務局 ～ がん教育は、小学6年生でもやっていく予定があるようです。
- 市長 ～ がん条例を作っておいて授業をしないのはありえない、とりあえず作って後から授業をやろうと考えていました。作って授業をやらないのではあまりにも酷いので、必ず授業には取り組んでいく。そして一緒にPRについても取り組もうと思います。授業と共に。たとえばピアサポーターの存在等も周知したい。そうすれば、家で潜在的に悩んでいる人にも知ってもらえるかもしれない。今はがんになる割合は3人に1人くらいか。
- 会員 ～ いまは2人に1人ですね、そのうち3人に1人はがんで亡くなります。
- 市長 ～ 認知症も2人に1人といっていますね。
- 会員 ～ 地域の拠点なので砂川の人に特化するのではなくて、広い地域にPRをど

んどんしてほしいと思っています。

市長 ～ おそらくがんにならないと存在を知ることはできないと思う。私も病院祭で話をしなかったら気付かなかったと思います。

会員 ～ 誰もがんになるとは思っていないので、その時にならないと興味を持ってない、どうしようとならない。その前からが大事だと思います。明るいがん患者もいるのでぜひ知って欲しいと思います。

市長 ～ 病院の地域連携室が所管なのかな。

事務局 ～ 今はがん相談支援センターが別にあります。それがあまり知られていないのです。前は一緒だったけども分離しました。

市長 ～ そうやっているのは空知でもここしかないでしょう。

会員 ～ 拠点はもうここしかないですね。空知は砂川だけ。

市長 ～ そういう役割を持っているのです。

会員 ～ 後は旭川まで行かないとないの....。

市長 ～ PRは色々病院のほうに聞いて役割を決めて、一般と対外的に市外を含めてどうやってやるかを、予算がかかるものでもないしやっぺいこうかなと思います。確かにがん条例を作ったのだからこれもその一環の中で。これも一緒みたいなものだしね。

会員 ～ 是非お願いします。

市長 ～ でも、ほんとに知られてないのですね。

会員 ～ 病気にならないと興味を持ってもらえない、病気になってもがんサロンに行こうとはなかなかならない、だから病気になる前から知って欲しいと思います。

市長 ～ がんになって病院に行ったらがんサロンの存在を知ることはできますよ

ね？

会員 ～ そういうわけでもないのです。担当医や看護師がこういうところがあるから相談しに行っておいでとか言ってくればいいのですが、現実はそのじゃないのです。病院でも共通の意識を持っていないとなかなか広まらないと思います。

市長 ～ なかなか言わないのですね。

会員 ～ 相談支援センターも相談に行けば患者としての希望の光も見えると思うのですが、なかなかそこに言っておいでという声はないです。患者になってすぐこういうところがあるから行っておいでという声があるのとないのでは全然違うと思います。

市長 ～ 病院と相談してこの制度とかをPRするように考えます。がん条例作ったのでタイミング的にはちょうど良いとも思いますし、お金もかからないと思いますしとりあえずやりましょう。

会員 ～ 砂川市は全道4番目にできたので早いと思います。

市長 ～ がん拠点病院なのに市が条例を持ってないのはおかしいですよ。病院で条例は作れないので我々行政の責任で作ろうと思いました。では次に、院内ボランティアのお話を伺います。こちらも要望が多い気がしないでもありませんが、何かありますか？

会員 ～ 私は今日の懇談会に参加していいのかなという感じだったのですが、ボランティア参加者ということで出席させていただきました。というのも、私は出身が歌志内ということで。私は平成16年に市立病院でボランティアを立ち上げた記事を見ました。歌志内の住民はほとんどが砂川市立病院のお世話になっています。それもありまして、私もボランティアとして病院のお手伝いを出来たらと思ひまして、他の町の人間ですけど伺いました。それで引き受けていただき、ボランティアとして活動させていただいております。先ほど市長からあったように、単純なボランティアで義務的になっているかもしれませんが、うちの町の人間がお世話になっている関係もありまして現在も活動させていただいております。

市長　～　砂川の方だけでこれだけの規模の病院をもたせようとしたら無理で、どちらかというと人口 10 万程度規模です。できるだけ人口規模は保ちつつ、圏域を広げていかなければなりません。それで南空知の美唄の方の患者さんも砂川で受け入れして、医者を派遣するなど、圏域を広げることで急性期の病院として生き残れるようにしています。いまや砂川市だけの病院じゃない。下手したらもっと北のほうまで行って、旭川ナンバーの車も増えています。砂川の病院というよりは、中空知の範疇を越えて、その急性期の人たちをどう診ていくか。

そして、慢性期患者は他の病院と連携をとっていく。他の病院もしっかり生き残らないといけない。バランスが崩れて医者に引き上げられてしまうと大変で、綱渡りをしているようなものです。できれば、うまく連携したいのですが医者の世界となるとそれがなかなか進まない。我々行政だけだと、そうしようねとできても、医療の世界に入ってくると医者不足もあるでしょうけども色々な問題が入ってきてしまう。できれば連携して在宅医療や地域医療を専門に他の病院でやってもらって、急性期は砂川市立でというのが良い。砂川市立病院で在宅医療をやるにも急性期の医者しか来れないものですから、急性期の医者の中に総合医みたいな役割が入ってくると辛過ぎてやれないのではないかな。他の地域で地域医療の専門の病院があって、そことの連携であれば、ある程度人口が減っても圏域としてやっていけるのではないかと考えているのですが、なんせ医者の数が絶対数足りていなくて、そのとおりに物は進まないです。

砂川市で地域包括ケアシステムを作ろうとしたのも私が市長になってからで、急性期の病院なのを理解してもらって、広島の先進的にやった病院、そこは町立だったかな、そこを見てきて、この方式は砂川ではやれないなと感じました。都会方式もできないけど、純田舎でもないところでの地域包括ケアシステムを作りたかった。私が出した結論で、行政のできるところは全部やって、いろんな職種の連携もやったのですが、最後医者の絶対数がなくて砂川市立病院が在宅医療に入っていくには急性期の先生ばかりしかいないから、砂川以外の所で在宅医療の拠点を作ってもらえると、連携をとって理想的なものになると、中々過渡期で皆がやりたいと思ってもできないのが現状でしょうか。

でも砂川だけの病院じゃない所から、歌志内とか違う人たちにもボランティアに参加してくれることがすごくありがたいと思う。中空知は自分の町だけでは生きていけない時代がとっくに来ている、それに対する対処をしていかないというような、危機感が共有できないところが辛いところ。私は行政の専門、管理部門にいたからどうやったら自治体が潰れ

るかというのをずっと見てきました。産炭地がなんで潰れたか、あその町はなんで基金あったのに、裕福だったのに潰れたとかを専門に勉強してきましたして何やったら潰れるかわかっているから、とにかくやれるところからやっていかないと、市立病院は急性期と慢性期は分けてもらわないと、どっちも市立病院に来ちゃうと結局内科は制限しなくちゃいけなくなって、でも本当に制限しても町医者に行ってくれるのだろうか、そんな甘いもんじゃないと思うのだけどどうなのだろうか、それが機能していくと市立病院が生きていけるような感じが出てくるのではないかと。でも、広域で歌志内の人がいることがすごくうれしくて、本来行政もそんな世界に持っていけなくちゃいけなくて、もうちょっと大きいところで一緒に生きていきたいですね。

会員 ～ 市長の言うことには同感です。

市長 ～ 私は在宅医療を早くやりたいと思っています。早くシステムを作ってオンラインで結んで、整備は電子カルテでやって、という風に。問題は医者を手配できればいいのだけど。どこのまちだったかな。全部直営でやっちゃう、砂川市でいう福寿園を直営でもっているようなまちもありまして、砂川市でこれをやっていくっていうのは現実的には難しく、機能はするだろうけど金もすごくかかる。こういうところ、福寿園は民間にやってもらうとかそれぞれの事業者で役割分担しながら、経費がかからないようにしながら、やるべきところは市がやってという方がいいと思っています。砂川ぐらいの人口規模だからできるのだけれど、住民の体が悪くなっている人、65歳以上の人を職員が1年半かけて15人体制でまわって全部把握してデータベースを持っています。内容については秘密事項です。病気がどうのとか要介護なんぼだとか緊急の時は誰に連絡を入れてくださいとか親戚、家族はどこにいる、見守りを必要として手を上げた人のデータを全部集めました。それは在宅医療に持っていく前段階として把握したデータベースで、そして地域医療は医者の問題が一番ネックだから一番最後になるだろうと。だから違う業種同士が連携を取るところから全部やってきました。進んではいるのだけど、医者が、足りないっていうのがネックになっていて。国がやろうとしたシステムって大都市は難しい。うちぐらいの規模だからできるのではないかと、医者や看護師がいたから。現実には中々どこも人手不足っていうのか、それでもぎりぎりやれない範疇でないからやるのですけど、それができちゃうと高齢者とかいろんな人とか、認知症の人とかがんの人をいれたりとか総合管理を本来目標にしようとした

理想は良かったけど、マンパワーというところで難しいところがあったりして、それができれば北海道では画期的なものができるのだろうと。だから、医者がどっかと落ち着いて連携できればという淡い期待は持っていたのだけれども、あの人は在宅医療に熱意があるから、あの先生がいてくれると若い先生が集まってくれる、そうすると個人でできないけど集まっていくと在宅医療というか地域医療というか急性期との役割分担ができるのではないかな。やっぱり医者の問題がネックになるのですができれば高齢化時代になってもある程度は高齢者も安心していけるのだけれども、ただ、認知症もそれに取り組もうとしています。何が何でもそのシステムに、おそらくそのうち認知症のひとつばかりが対象者になるのではないかなと、その見守りのうちで持っているデータの対象者は。半分くらいは認知症になるのではないかなと予測があったので、それも取り入れたシステムを作った、地域の見守りとかもまんべんなく町内会と協定を結んで見守るようにしたのです。そんな全員なんて誰も見る人いないでしょうってだから対象を限ればいいのだとこの町内はこの人とこの人だけ、それなら見れる。その条例を私が作った、個人情報保護法があるけど住民4情報は地域に開示する。個人情報福祉目的まで制限していないと、だからやり方だけ限定すれば社会福祉協議会を通して、法人格を通して、町内会の特定の人にだけ教える、みんなには教えない。その人がデータを知っていればいいというやり方、その人が喋ったらまずいから研修してそうならないようにして特定の人だけ見守りできるようにしようと。

会員 ～ 民生委員とかではなく町内会ですか？

市長 ～ 町内会です。民生委員の区域と町内会の区域がイコールではないのですよね。それから民生委員にも入ってもらいました。聞き取りの際は民生委員の人にも一緒に周ってもらった。町内会の人と協定を組んでやった。民生委員も情報を見ることはできます。職種柄一般の人は見ることはできないけれども職務上民生委員も見ることができます。これをやることで民生委員のモチベーションが上がり、対象がはっきりしたことで民生委員自身が楽になったという効果はあった。院内ボランティアの方は、いつも病院で元気に立っているのを見るとつつい声をかけたくなるのですけども、やっぱり色々聞かれることはあるのですか？

会員 ～ 聞かれるというより、患者を受入れてその場所に連れて行ったりしていま

す。

市長 ～ 車椅子に乗せて連れて行くこともあるのですか？

会員 ～ 乗せて連れて行っています。びっちりやって1時過ぎまでやっています。

市長 ～ 今だいたい何人ぐらいでやっているのですか？

会員 ～ だいたい2～3人ですね。今ボランティアの登録が10人ぐらいですかね。3人くらいは休止というかほとんど来ていない。

市長 ～ 募集はしてないのですか？

会員 ～ しています。

市長 ～ それは広報に載せて？

会員 ～ そうです。

市長 ～ 市のHPにも載せていますよね。

会員 ～ 人数が少ないものですから週のバランスが、人数が多い日と少ない日が出てくる、人が少ない日は負担がかかります。

市長 ～ では、メンバーは固定されてきているのでしょうか。病院に行ったときも同じ人を見ますし。

会員 ～ だから、もう少し人数を増やして欲しいと思っています。募集をかけていますけどなかなか...

市長 ～ 他のボランティアも募集をかけていますが来ないですよ。有償にしたら来てくれるのですが、そうするとみんな有償の方に行ってしまうと、無償の方に行く人がいなくなってしまうこともある。やっぱり、本当のボランティアってどうなのでしょう。アメリカとか欧米だとボランティアって言うのだけれど、日本でボランティアってどこまでのものだろうって、義務的というか立場があってやっている人もいますよ？

そういう人たちが難しくて、本当にひたすらやっている人は、今言われたとおりに黙っていても何も言われなくてもやっていて、そしてもっと人が増えればいいなど、そういう人たちが一番貴重なのだと思います。例えば役所の幹部職員の奥さんのボランティア組織があります。まだ残っているのは砂川と岩見沢だけであとは解散しました。うちは辛うじて残っています。

会員 ～ やっぱりね、どうしてこうなるかという、定年になる何年前から自分の生き方というか、定年になったら明日からどうしよう、ってのをみんな持っているのですよ。私もそうでした、定年になってもう13年くらいなのですが、自分の人生を定年になってからどうしようと、家でたばこ飲んで、お茶飲んでテレビ見て過ごすのか、それとも定年になる前からひとつの心構えとして、地元あるいは他市町村のボランティアの何かでもしてみようかなと、ボランティアも結局まだ浅いのですから。日本では、大震災あってからやっと動き出した。まだ15年か20年そこそこなのですよ。歴史的にも、だからかなり浅い、まだまだ浸透していませんよ。我々自身も、結局は定年になる何年前から自分は定年後にボランティアでもやってみようか、あるいはそういうような何かに参加してみようかと。定年になって3年4年もしたらもう家から出ないですよ。

市長 ～ もうそれに落ち着いちゃったらね。

会員 ～ もう落ち着いちゃって、そんなとこまで行ってボランティアするなんて私にはできないわとね。自分で心を途絶えさせてしまう。だからそこら辺の、さっき言ったがんサロンじゃないけども、そういうようなひとつの日本の或いは砂川にしても滝川にしても歌志内にしてもひとつ、まだ家の中でお茶飲んでたばこ飲んでテレビ見ている時代じゃないですよ。もうちょっと何か地域に或いは何かの形でひとつでも貢献してくれないと。僕はボランティアが浸透するのにまだ5年くらいかかると思うのですよ。まだ発足してから20年そこそこですから実際には、さっき言ったがん対策と同じようなことなのではないかなと思っています。

市長 ～ ホームページだったらパソコンやる人しか見ることができないし、スマホやる世代だとボランティアに関心ある人は少ない。やっぱり一番良いのは広報なのですけれども、広報で実態が掴めるかどうか、目で見てわかるのが一番いいから伝えるなら「やっているから来て下さい」なのかな？工夫しないで広報でだけやってでは、あまり効果がでなかつたりすると思うの

ですよ。

会員 ～ そもそも、そういう風な気風になっていないのではないですか日本は、スウェーデンなんかすごいですよ。スウェーデンの話なんかすればあれだけ税金が高くて、10人いたら1人も文句言わないってわけじゃないけども、税金取られてもある程度の福祉に徹して、国自身がそれだけつぎ込んでそれこそ生まれてから墓場まで国で全部見ます。その代わり税金は40～45%頂きますよと、それに対して払いましょとその代わりそれだけの見返りや関心というものがあると同時にやっぱり日本のボランティアってまだ浅いと思う。だから、今市長が言ったとおり広報で出したからって来ませんよ。お金出したら集まるかもしれないけどそれだって長続きしませんよ。

市長 ～ 一生懸命やっている人はプライド持って、お金でやっているのではないという人たちもいる。長年やっている人は特に。

会員 ～ ボランティアっていうのが何者なんだろうと、どういう生き物なのかというのがまだ理解されていない。

市長 ～ 事業やって見てもらう。たとえば、認知症のぼっけの会は曜日で開いて、一般の人たちが見るところでやって見てもらって広めようとはしていますね。実際それでどれだけ増えたかはわかりませんが。そういうようなのも周知しながら、今回この懇談会をやったので広報と私のブログの中で、いつやっているのか、とか一回見て下さい、とか周知します。

会員 ～ しつこく言うのですけどね、そういう現役で働いている時代からボランティアというのがどういうものなのか、自分が定年後になったらボランティアに行ってみようかなんて今働いている人がそういう気持ちにならないと、もう仕事やめて5年も6年も経ったら玄関から出ないですよ。

市長 ～ でも、今回の懇談の写真載せて、周知して、こういう活動していますよと。皆さん今回の写真も載せますけど。人が見えないとね。文面だけじゃ集まらないものですから、それで、一人でも興味持って来てくれたらっていう可能性にかけるしか。ただ広報で「募集しています」だけじゃだめですよ。やっている人が見えないと何をやっているのかわからない。

会員 ～ 60で定年になって、まだ相当な人材がいると思うのですよ。

- 市長 ～ 男の人のボランティアって少ないですか？
- 会員 ～ 少ないと思います。やっぱり女性の方がボランティアとして幅が広いのではないですか？
- 市長 ～ 女性のほうが、考え方が男と違って、男は会社務めで、理屈で覚えてきて自分で納得して理屈がないと動かないけども、女性って理屈でもの考えないところがあって、社会性を持っているというか社会参加が進んでいるというか。
- 会員 ～ だから働いているときからそういうひとつの活動を作るような、そういう形にしていかないとね。
- 市長 ～ そういうのを地道にやっついていかないとダメだね。
- 会員 ～ これはすぐ来年再来年じゃなくて、今現役で働いている人にいかに説得してくかそういう気持ちになってもらうかが必要です。
- 市長 ～ 今ね、この懇談をどうやって周知するか、市長のブログに載せるか、見せ方っていうのかな。興味持ってもらえるような、足を運んでもらえるような方法をイメージしていました。可能性がある方にかけたいので、まあ 500 人見てもらえれば興味を持つ方もいるだろうけど。面白く書いたら件数が増えるのだけど、面白ければいいってもんでもないですしね。
- 会員 ～ 定年になって今 60 でさ、そのぐらいになったら何かの形でボランティアに関心を持つこともある。幅広くたくさんボランティアの分野もあるのだから。でも私が、定年なった頃に自分を振り返ったらね。砂川にどんなボランティアがあるのかっていうのがわからなかったのです。
- 市長 ～ 意外とたくさんあるのです。
- 会員 ～ たくさんあるのけども、どんなボランティアがあるのかっていうのが定年になるまでわからなかったのです。
- 市長 ～ たとえば、子育てだったら交流センターゆうでは 2 階で子供を扱うボラン

ティアをやっている方がいます。それを私が全部調べて行って写真を撮って、了解を得てみんなに見せた。皆さんが知らないところでこんなことをやっている人がいますよと。それを見て初めて気づく人もいるのですが、自分達ではそれを宣伝しないし、行政もしないものだからやっていることをみんな知らなかったなんてこともある。

会員 ～ 家庭でね、3月いっぱいでお父さん仕事終わりですよと、その前から父さんあと1年したら定年になるけども、こうやって色々なボランティアがあって、父さんが今までやってきた中で何かの形で定年になった後も何かしてみたらと、声かけなんかもあると思いますよ。毎日朝から晩まで1年も5年も八十何歳まで家にいられても困るから、ちょっとまだ元気出して足腰も大丈夫だし。

会員 ～ あのね、ボランティアって自分なりの理解がなければ絶対にできない。その一言。自分が理解して自分がやろうっていう気持ちが必要。誰かに言われてやるのではなくて、自分がボランティアをしようって気持ちがなければできない。きっかけじゃなくて自分がしようって気持ちがあればできない。

市長 ～ ただ、見て参加した人も現実にはいる。これなら私にできそうだとか、時間が合いそうだとか。中身がわからなかったらうかつに入ってやめられなかったら困るとか、いろんなこと思って、現実に見てきて。子育ての場合は見に来た人がいて、時間が自由で、いればいるほど楽になるっていつ来てもいいですよってスタイルにすると私はこの時間なら参加できます。そういう感じでボランティアに参加した人も「ゆう」の2階にはいたので、中身と写真を目で見て判るようにして、活動内容書いて、会員募集していますという感じでやろうかな、だめもとで。

会員 ～ 色々やってみたらいいですよ。あの手この手で。

市長 ～ 決め手はおそらくないものですから、来てくれると一番いいのですよね。これくらいなら私にもできるって判断してもらわないと。病院ボランティアは少し特殊だから患者さんの気持ちとか理解してくれる人がいないと入ってこないだろうけど。それでも存在自体を判ってもらえるといいですよ？

- 会員 ～ そうですね、このようにやっていますよっていうのを。
- 市長 ～ 北海道で一番うまくいっているがんサロンだって伝えて、本当のことだから。興味を持ってどうなのだろうって見に来てくれると、雰囲気いいねとか思ってもらえるんじゃないかと。これは週に何回かやっているのですか？
- 会員 ～ がんサロンは月に1回です。第二水曜にやっています。
- 市長 ～ あとは文章をうまく書きます。私が。あと、病院祭に来てくれるとわかりやすいですね。
- 会員 ～ そうですね、でも毎月のやつに来てくれるほうがいいですね。
- 市長 ～ がんになられた方とかすごく大変な中でその中に入って行って、ボランティアも兼ねてやっていくなんて所に心の救いもあったりして色々な要素があるからそれをどうやって伝えていくかってのを考えます。
- 会員 ～ そして私たちのやっている病院ボランティアは自分達が自分の健康を維持するためにもいいですよっていうのも書いて頂けるとありがたいです。
- 市長 ～ 健康ね、わかりました。ボランティアを始めたきっかけはありますか？
- 会員 ～ 私は福祉の仕事をずっとやっていて。それで市立病院に出入りして、そこから始めました。
- 市長 ～ きっかけは何でもいいですよ。やってくれて、残っているというのが大事。
- 会員 ～ やっぱりきっかけは大事。何かきっかけがあればこっちに足向いてくるだろうし来て頂けるようになれば今みたいな形で続けてもらえるだろうし。
- 市長 ～ 他に何かありますか？
- 事務局 ～ それではそろそろお時間の方も参りましたので、以上をもちまして協働のまちづくり懇談会を終了いたします。本日は大変ありがとうございました。

終了 (14 : 45)